

問題 1

本文の要旨を 200 字程度で要約せよ。

東日本大震災後に急拡大した太陽光発電は、2030 年代後半に寿命を迎え大量廃棄が始まり、年間 50 万トンに達すると見込まれる。環境省などは製造業者にリサイクル費用を負担させる制度を検討したが、既存法との整合性を理由に断念し、報告義務などにとどめる方針だ。パネルには有用な資源が含まれる一方、コストや海外製品の多さなど課題も多い。技術開発とリサイクル義務化で持続可能な処理体制の確立が不可欠である。(192 文字)

問題 2

ソーラーパネルを用いた大規模な太陽光発電の問題点として、「耐用年数を過ぎたパネルの処理方法」や「広大な土地の使用による生態系への影響」が挙げられる。太陽光発電の是非について、賛成・反対の立場を明確にした上で、あなたの意見を 400 字以内で述べよ。

私は、ソーラーパネルを用いた大規模な太陽光発電に賛成である。

ソーラーパネルによる発電は、広い土地を必要とするため、その土地の景観を損なう原因に繋がる、生態系への悪影響を及ぼすなど危惧される点がある。しかし、火力発電や原子力発電と異なり、大気汚染の観点から考えるとソーラーパネルの利用に伴う不安は少なく、環境や近隣住民への配慮もされており、発電方法としての有用性は高いと言える。

また、既存の建物の上に設置でき、個人所有が可能である点は魅力的である。一般市民が発電手段を有し、電気料金を節約できれば、経済の活性化にもつながる。導入費用や維持費用を考慮しても、災害等による停電時に、太陽光蓄電によって電力を自給自足できることのアドバンテージの方が大きいのではないだろうか。

上記した他の発電方法との比較や日常生活における利便性を踏まえ、私はソーラーパネルを用いた大規模な太陽光発電に賛成する。(392 文字)